

# 多主体協働による復興まちづくり

－ 南蒲生の例から －



元・都市デザインワークス / 現・界限創造舎

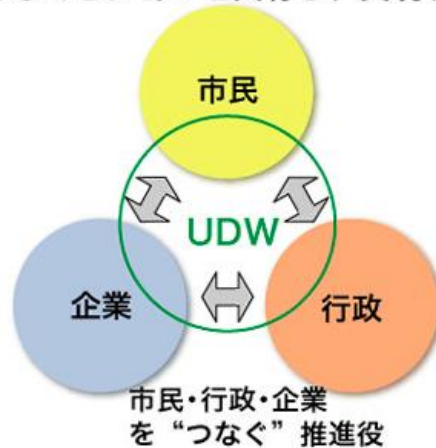
岡井 健



# 特定非営利活動法人 都市デザインワークス

これからの都市づくり

みんなでビジョンを共有し、実現する。

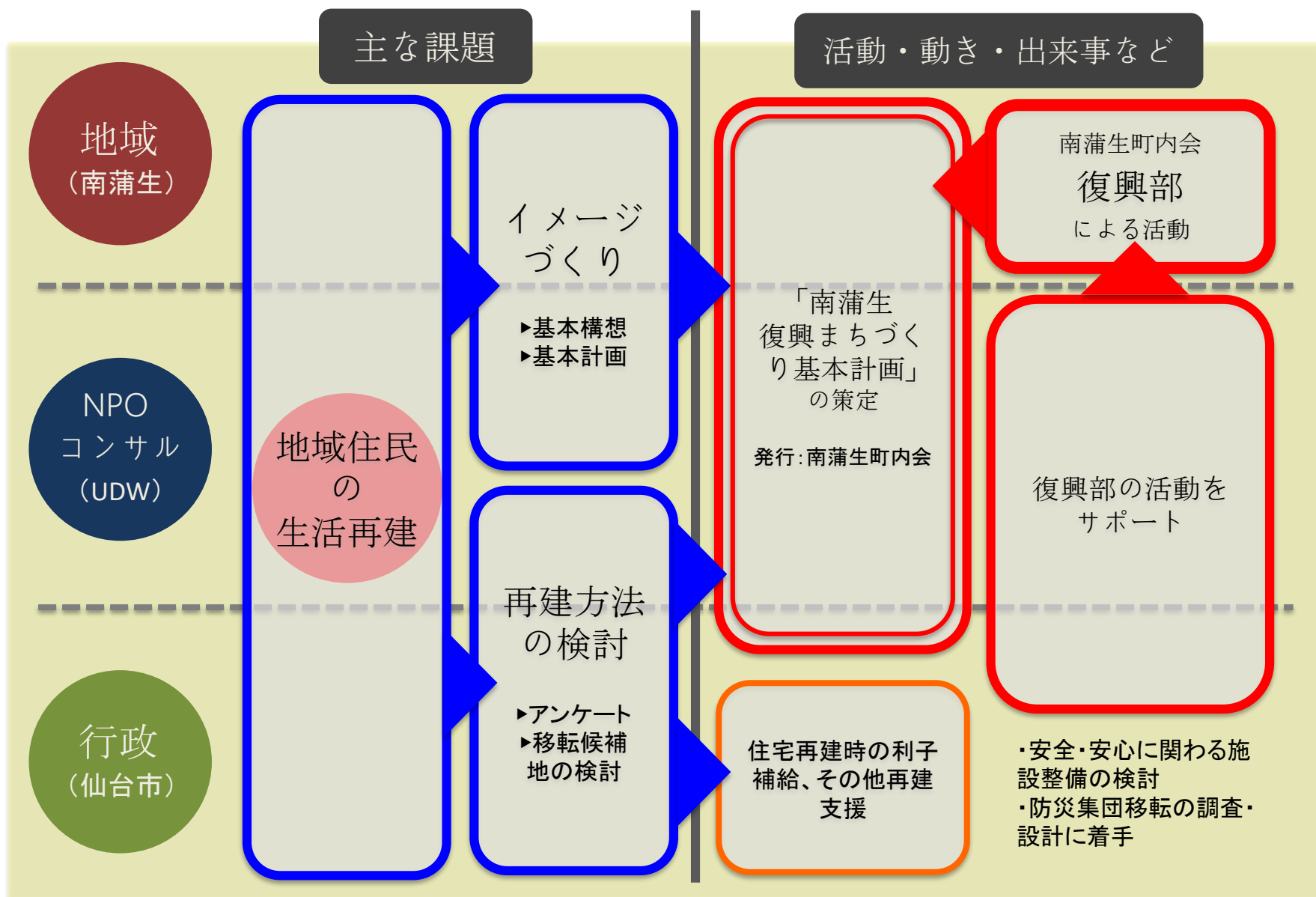


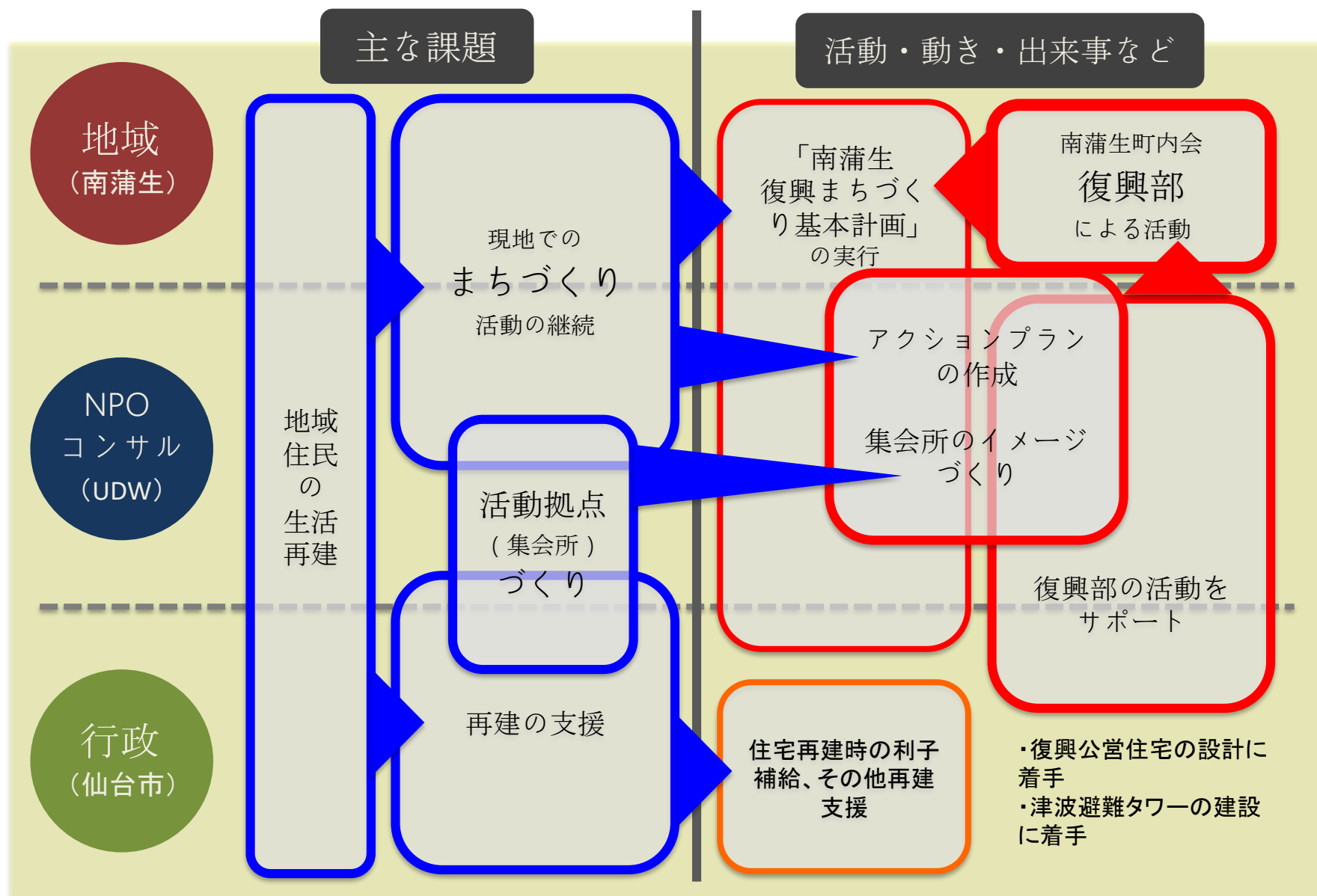
2015年4月

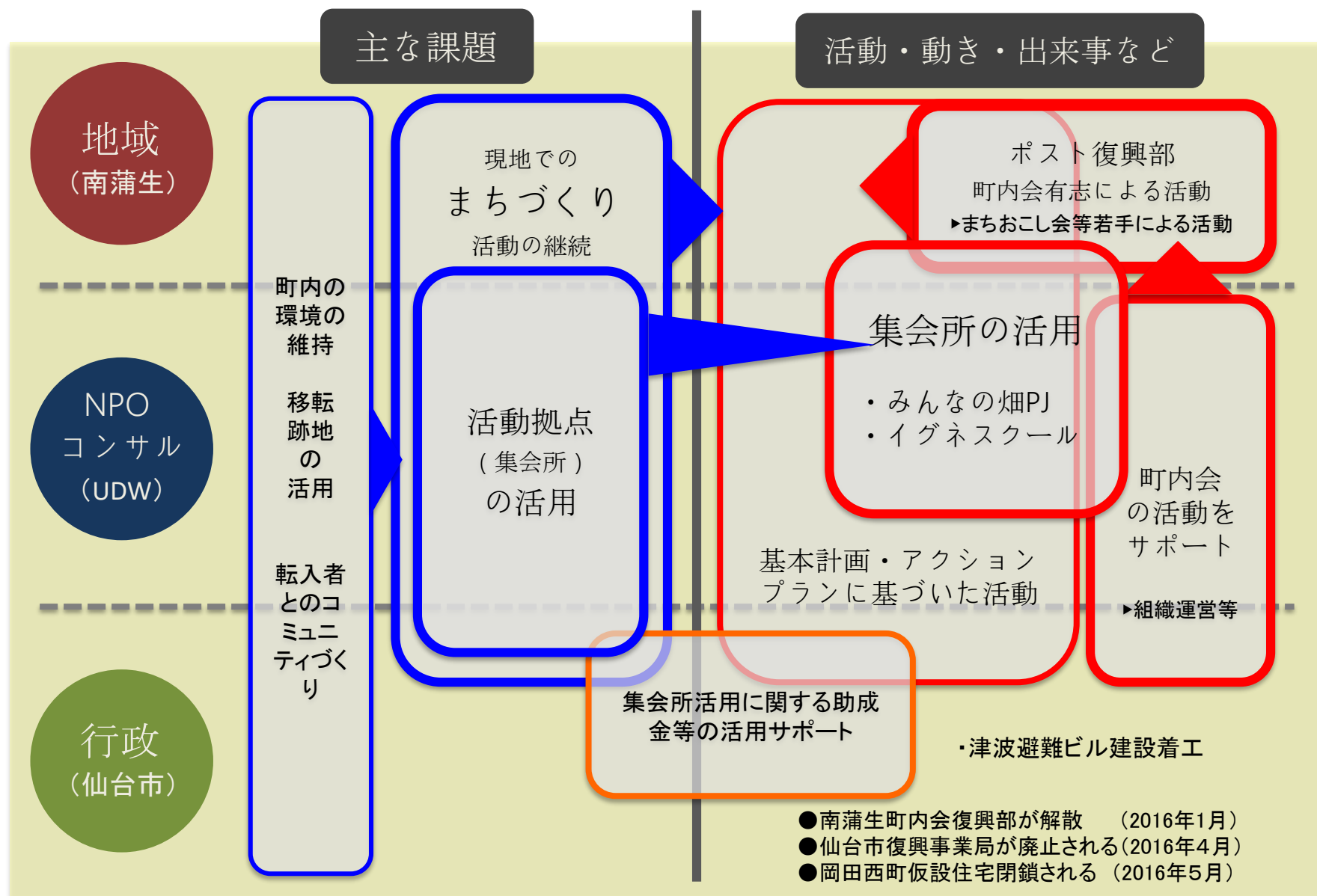
多くの人が都市に快適に住み、その賑わいが訪れる人を魅了する都市本来の魅力を取り戻し、次の時代へと「つなぐ」都市づくりのために、個々の利益ではなくみんなの、まちの利益のための新たな都市づくりのシステムをつくり、その中核をなす組織を立ち上げなければなりません。

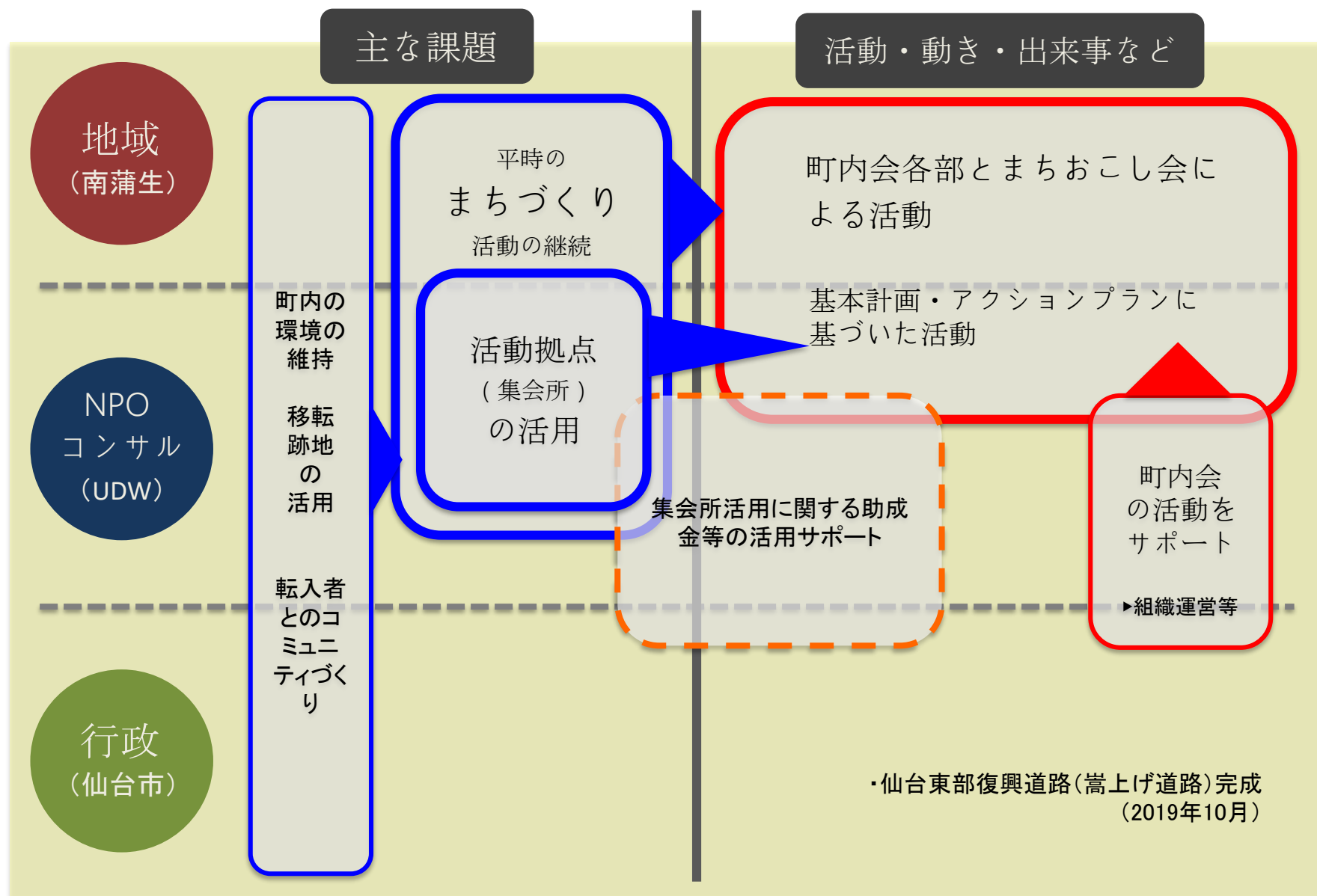
私たちは、都市づくりに関する幅広い専門知識を構築し、長期的・持続的・総合的な視点のもと、市民と行政と民間企業と共に新たな都市づくりを実現していきます。

都市の将来像を具体的に分かりやすく示し、みんなで共有するとともに、その実現に向かって様々な主体と連携をとって市民のニーズを汲み上げ、企画から計画そして設計を行います。さらにその実施、運営まで携わる一貫した都市デザインとして実践していきます。









## 約 7 年間のサポートから

- 地域の “思い” を “計画” に
  - ・ 拠り所になる「言葉」や「イメージ」
  - ・ 時間を意識したプラン
  - ・ 行政の施策・計画も意識
- “計画” を “アクション” に
  - ・ プランを具体的に実行(アクション)していくために  
→ 南蒲生の場合は「アクションプラン」を作成
- アクションを「地域のもの」として着実に継続
  - ・ 「やらされる」ものではなく「自分ごと」に

都市デザインワークスの役割からみえた、協働に必要なポイントとは？

## 1. 信頼関係を構築するためのサポート役

### 1-1. 相互の翻訳者として

- ・行政言葉、専門用語、を翻訳して地元住民に。
- ・住民の思いを形(計画等)に、あるいは的確に行政に伝え共有。

### 1-2. レフリーの役割、あるいは交通整理誘導員の役割

- ・地域の思い、行政の思い  
→どちらかが強すぎると摩擦に。  
ボリュームの調整が必要な場合も。

都市デザインワークスの役割からみえた、協働に必要なポイントとは？

## 2．地域の自立、自走のサポート役

### 2-1. 伴走者の役割

- ・主役は「地域」、地域の方々の自走の手伝い
- ・最終目的はサポート役は「いなくなること」  
=自立したまちづくり活動

### 2-2. アドバイザーの役割

- ・客観的視点の提供  
→地域の気づかない魅力をカタチに:「みんなの居久根」
- ・課題の捉え方、把握
- ・人の集め方、話(会議)の進め方